



障害者福祉充実を

「守る会」が創立40周年

仙台で式典

知的障害と身体障害が重なる重度障害者の家族らでつくる「県重症心身障害児(者)を守る会」の創立四十周年記念式典が十六日、仙台市太白区

の茂庭荘であった。会員ら約七十人が参加、交流を深めながら障害者福祉の向上を目指してきた活動を振り返った。

守る会の秋元俊通会長は「()支援への感謝の心を忘れず、社会の共感を

あいさつした。記念講演した「全国重症心身障害児(者)を守る会」の田村輝雄副会長(東北ブロック長)は、遅れていた重症児・者への国などの施策が、関係者の努力で徐々に充実した経緯を解説。障害者福祉の改革が進む中、重症児・者の問題にさらに社会の理解を広げる大切さを指摘した。

県の「守る会」は一九六五年十月の設立。会員は重症心身障害児の父母ら二百十六人。キャンプや研修会開催などの支援を行うほか、行政などへの要望活動などを展開している。東北初の民間の入所施設「エコ―療育園」や通園施設「みつばち」の開設にもかかわった。



「みんなとともに」をテーマに開かれた創立40周年記念式典

得ながら障害児・者のさらなる幸せを模索し、地域でだれもが安心して生活できる社会を目指す覚悟を新たにしている」と